

区民と創る台東区の男女平等参画のための情報誌

はばたき21

通信

2020・3

No.39

仲間の大切さを
子供たちへ

練習に励み
精一杯楽しみたい

心身の健康の
ために

スポーツする女性たち

●特集
スポーツする女性たち
◆世界にはばたく女性アスリート
◆自分らしくスポーツを楽しむ
・どうする?家庭での性教育
・「はばたき21」講座レポート
・「はばたき21」情報コーナーおすすめ図書案内
・たいとうのキラッとさん紹介
・きて!みて!「はばたき21」

世界にはばたく女性アスリート

近年、さまざまな競技での女性アスリートの活躍が目立ち、また女性がスポーツを楽しむ機会が増えてきました。ここに至るまでには、女性たちがスポーツの世界にも数多く存在した差別や困難な壁に立ち向かい、克服してきた歴史があります。

ここでは、オリンピック・パラリンピックを例にとり、その軌跡を振り返ります。

▼スポーツの歴史を築いた日本の女性たち

2019年のNHK大河ドラマ『いだてん』は、日本人が初めてオリンピックに出場した明治の終わりに、東京オリンピックを開催した1964年までのおよそ50年の歴史をテーマとした物語。その中で女性スポーツのさきがけが描かれました。

日本人がオリンピックに初めて参加したのは、男性が1912年のストックホルム大会、そして女性が1928年のアムステルダム大会。この時、陸上競技の人見絹枝選手が、800メートル走で銀メダルを獲得しました。日本人選手43人のうち唯一の女性による快挙です。

1936年ベルリン大会では、水泳200メートル平泳ぎの前畑秀子選手が日本人女性初の金メダルを獲得しました。

得しました。指導するコーチもいなかったため、練習はすべて自己流で連日長距離を泳ぐという、現在では考えられないような過酷な環境でした。

1940年の東京大会は戦争の影響で幻に終わりましたが、1964年アジア初のオリンピックが東京で開催され、女子バレーボールで「東洋の魔女」と呼ばれた日本チームが金メダルを獲得し、女性スポーツの社会的地位を高めました。

1992年バルセロナ大会から出場した柔道の田村亮子選手は、結婚・出産後も連続出場し活躍しました。(図1を参照)

▼女性アスリートの躍進

夏季オリンピック・パラリンピックの参加選手に占める女性選手の割合の変遷を見えます。(図2・3を参照) 女性が選手として初めてオリ

ピックに参加できるようになったのは、1900年のパリ大会。参加した女性選手は22人(2.2%)、女子種目が採用された競技はテニスとゴルフの2種目のみでした。長らく男性のみで構成されてきたIOC(国際オリンピック委員会)によって「女性らしい」とみなされた競技が、オリンピックの女子種目として認められていたのです。

そのような夏季オリンピックの女性選手比率が、2016年里オ大会では45.6%、2020年東京大会では48.8%と過去最高になる見込みです。パラリンピックは、1948年に開かれた障がいのある人によるスポーツ競技大会が原点で、1964年東京大会で幅広く世界的になりました。夏季パラリンピックの女性選手比率は、近年3〜4割程度で推移しています。

冬季オリンピックについても女性選手比率は増加傾向にあり、2018年平昌大会では、42.5%と過去最高になりました。一方、冬季パラリンピックの女性選手比率は、2割程度にとどまっています。

▼さらなる飛躍をめざして

こうした女性アスリートの活躍の

女性差別やさまざまな壁を乗り越えてきた歴史の上に、現在は「女性とスポーツ」の隆盛期ともいえますが、まだまだ課題は残っています。

図2・3 女性参加可能競技数と女性選手比率(世界)

図2 夏季オリンピック

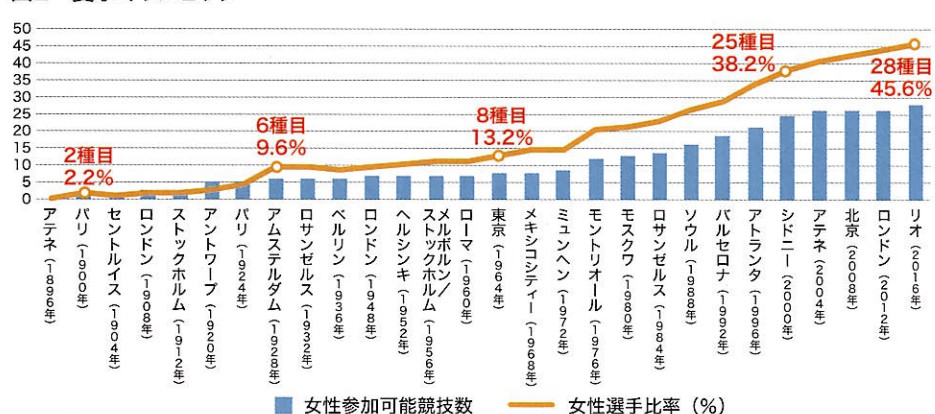


図3 夏季パラリンピック

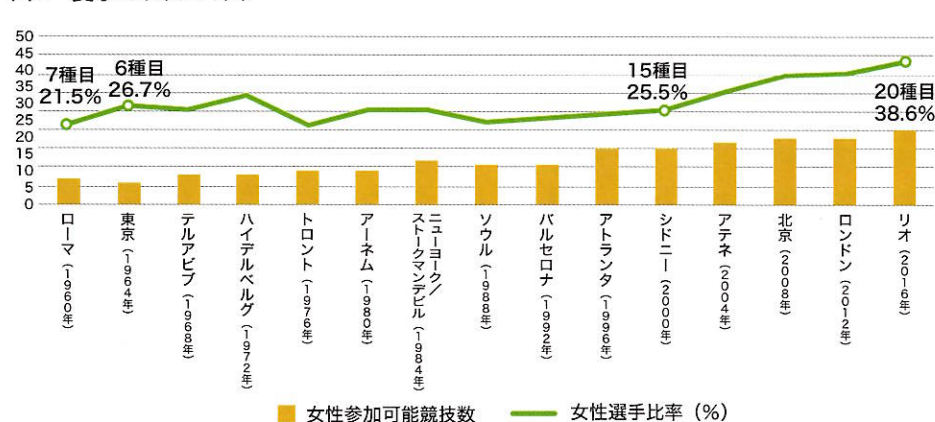


図1 夏季オリンピックと女性選手の活躍

開催年	開催地	日本人選手のメダル獲得数		選手の活躍・出来事
		女	男	
1896	アテネ	—	—	男性のみ参加
1900	パリ	—	—	女性初参加(テニス・ゴルフのみ)
1928	アムステルダム	1	4	日本人女性が初参加 陸上競技の人見絹枝選手が日本人女性初のメダル
1936	ベルリン	1	19	水泳競技の前畑秀子選手が日本人女性初の金メダル
1964	東京	2	27	女子バレーボールで日本が金メダル 「東洋の魔女」と呼ばれた
1992	バルセロナ	9	13	女子柔道が正式種目に 田村亮子選手が5大会連続メダル
1996	アトランタ	7	7	女子サッカーが正式種目に
2000	シドニー	13	5	女子重量挙げが正式種目に
2004	アテネ	17	20	女子レスリングが正式種目に
2012	ロンドン	17	21	全競技で女子種目開催 参加したすべての国・地域で女性選手を派遣

日本人女性初のオリンピックメダリスト

人見絹枝(1907-1931)

「日本女性は人前で太ももをさらすべきではない」と女性がスポーツをするなどもってのほかという時代に、偏見と戦いながら、日本女性の存在を世界に示しました。競技のかたわら新聞記者としても活躍し、海外遠征の経験や見聞をもとに記事を書き、各国の女性スポーツ事情を日本に紹介しました。

▶特集 スポーツする女性たち

自分らしくスポーツを楽しむ

これまで、男性主流と考えられてきたサッカーや野球などのスポーツにおいても、今では多くの女性アスリートが活躍できるようになりました。さまざまな環境で、それぞれのカタチでスポーツを楽しんでいる女性を紹介します。

**練習に励み
精一杯楽しみたい**
野球選手・小島佑果子さん

私立村田女子高等学校の野球部に所属する小島佑果子さん。小島さんと野球との関わりについて聞きました。

私は小学生の頃から運動が好きで、サッカーが野球をやりたいと思っていました。小学4年生の時、友達が所属している地域の野球チームで野球を体験させてもらい、そのチームに入りました。女子は私ひとりでしたが、ピッチャーをはじめ、内野手などいろいろなポジションをやらせてもらい、一打逆転でゲームがひっくり返る「何が起るかわからない」野球のおもしろさにはまっていきました。

中学生の時は、学校の野球部に入り、それとは別に、女子野球チームにも所属しました。学校の野球部でも、女子はひとりでしたが、特にやりにくさなどを感じたことはありません。中学生になると、男子と女子では体つきが変わってくるため、筋力の差を感じることはありましたが「練習を人一倍やってカバーしよう」



得意な球種はカーブ。中学時代は球速98km/hを記録

と思い、日々、練習に打ち込みました。

本当は、中学生で野球はやめようと思っていたのですが、中学3年生の最後の大会ですごく悔しい思いをし、その時、先生や母が「これで野球をやめてしまっているの？」と言ってくれ、高校でも野球を続けることを決めました。

今の悩みは、野球部員が4人しかいないことです。9人に達しないと、他校との合同チームで試合に出場するので、できれば同じ学校の仲間とチームワークを築いていきながら試合に出たいです。高校卒業後は、野球を続けるかはわかりません。今は精一杯、野球を楽しみ、早くマウンドに立って、バッターを打ち取りたいです。

仲間の大切さを 子供たちに

空手指導員・岡時子さん

全日本空手道連盟公認四段、日本協公認上級指導員の資格を持つ岡時子さん。自身の稽古に励むかたわら、子供たちの指導に携わっています。岡さんが子供たちに伝えたいことは。

私が空手を始めたのは、41歳の時です。それまで、スポーツに真剣に打ち込んだ経験はありません。息子たちに武道を習わせようと、台東区主催の親子空手教室に参加したのがきっかけです。「形」を打ってみるとすぐおもしろかったんですよ。それで、息子たちと一緒に拳心会の教室に通い始め、現在に至っています。

指導員は、8年ほど前からやっており、地域の大会などでは審判員を務めることがあります。スポーツ組織は、女性の占める割合が低いと言われていますが、空手の世界も同様、女性の審判員や指導員は非常に少ないと思います。「試合で、ひとつのコーターの審判員6名に対して女性審判員が一人、いるかないか程度です。指導に携わっている中で、性差を

心身の健康のために ゲートボールチーム そめいよしの

台東区には、現在12チームあり、なかでも、そめいよしのは30年以上続く強豪シニアチームです。そめいよしのの皆さんにとって、ゲートボールとは、どのようなものなのでしょう。メンバーの方にお聞きしました。

●ゲートボールは、戦略を駆使して、臨機応変に、的確な判断を要します。頭をフル回転させるスポーツなので、とてもいい刺激になっています。また、チームワークが必要不可欠の競技です。年齢や性別、技術の違いを、みんなで補い合っています。この歳でも「もっとうまくになりたい」という向上心を持てるのもうれしいですね。

●私はゲートボール歴27年です。ゲートボールはよく歩くスポーツで、1回の練習で2500歩ほど歩きます。87歳になりますが、こうして元気でいられるのはゲートボールをやってきたからです。

●私は親の介護が終わって、しばらく何もする気が起きなかったこと



吉野公園で週4回活動、メンバーは男性6人・女性6人、60～90代で構成

●ずっと仕事をしましたが、今はしていません。朝きちゃんと起きて、ここに来て、仲間と練習をするのが今の楽しみです。娘に孫の面倒を見て頼まれ「私は明日、試合があるからダメだよ」と返すと「お母さんアスリートみたいだね」なんて言われています。

●私は健康のために始めました。ここに来ると仲間がいて、みんなが教えてくれ、支えてくれます。だから、がんばって練習に行こうと思います。体が動く限り、ずっと続けていきたいです。

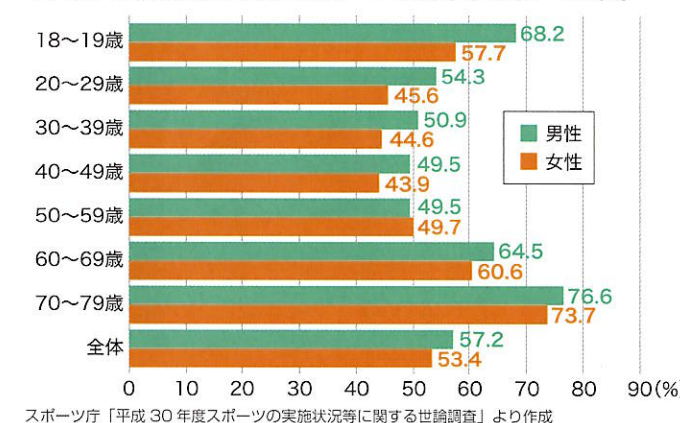


今戸社会教育館ホールで週2回活動する拳心会石浜クラブスポーツ少年団。岡さんは子供たちの指導にあたっている。(岡さんは後列一番右)

感じたことは特にありませんが、「岡先生の技術指導は、実践的アプローチだけでなく、理論的に細かく教えてくれるのでわかりやすい」と言われたことがあります。それは、女性特有の細やかさというのが活かされているかもしれません。

空手教室には、女の子もたくさん習いに来てくれています。子供たちには、空手を続けていって欲しいという願いと、仲間(先生、生徒も含む)の存在を感じてもらえたらと思っています。私自身、これまで空手を通して出会った仲間から日々刺激を受け、支えてもらっています。仲間はかけがえのない存在です。私も、仲間と共に、切磋琢磨し、精進していきます。

年代別・性別の週1回以上スポーツ実施率(10代～70代)



男性より低い女性のスポーツ実施率

成人の週1回以上のスポーツ実施率をみると、女性は50代を除くすべての年代において男性より実施率が低くなっています。運動・スポーツの頻度が減ったり増やせない理由としては「仕事や家事が忙しいから」(45.1%)が最も多く、「面倒くさいから」(28.4%)「年をとったから」(26.4%)などが続いています。

女性のスポーツ促進にはまだまだ余地があるわけです。

CMの事例から学ぶ！ メディアが発する女性像・男性像

■日時：2020年1月11日(土)午後1時30分～3時30分
■講師：田中東子さん(大妻女子大学文学部教授および
東京大学大学院情報学府客員教授)



私たちの身近な素材である広告を題材に、ジェンダーや性差別の問題を考えるとは？
様々な動画やポスターを交えて、田中さんにお話していただきました。

●「炎上」する広告

世界経済フォーラムが発表した2019年の「ジェンダーギャップ指数」で153か国中121位となった日本。女性のライフスタイルが変化しても男性のライフスタイルはあまり変わらず、テレビCMの中には旧態依然のものが数多く存在しました。

しかし昨今、そうしたCMが改善されてきており、その背景にあるのがSNSにおける広告の炎上です。

炎上する広告には、性役割を強調する、女性を商品化する、アダルトビデオの手法を盛り込んでいるといった特徴があり、民間企業だけではなく、自治体や大学など公共性の高い組織もそのような動画やポスターを制作してしまっています。

参加者の声

- 日本と海外のCMを比べて見られて、日本のジェンダー意識の低さが改めてわかった。
- 女性を応援するつもりでCMなのに、見てみると苦しくなってしまう…CMは難しいものですね。



● SNS 時代のジェンダーとメディア

炎上の背景には、アナログからデジタルへというメディア環境の変化があります。

それにより、企業CMやPR動画に対する多くの女性たちからの批判が、SNSを通じて炎上という形で顕在化されるというプラスの面がある一方、オンライン上での女性蔑視的な発言やアダルト広告の蔓延など、マイナスの現象も起こっています。

●状況改善するには

CMが発する性別役割分業の再生産や性の商品化など、問題の焦点が何なのかということに気づく。また、性別に関するステレオタイプの広告を禁止するといった海外の取組から学ぶなどの方法があります。

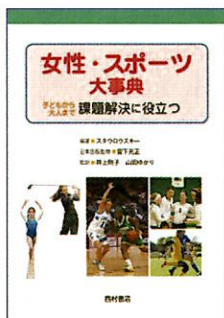
そして、人々が様々な観点から映像やイメージを見ている現在、送り手の想いや意図が伝わらないこともありうるという前提で発信していくことが求められています。

- ※ジェンダー…社会的・文化的に構築された性
- ※炎上…インターネットに不適切にアップロードされた記事・写真・コメントなどに対して、制御不能な規模での非難、中傷、批判のコメントが殺到する状態
- ※ジェンダー・ギャップ指数…スイスの民間研究機関「世界経済フォーラム」が、政治、経済、教育、健康の4分野における男女間の格差を毎年発表。日本は特に女性の政治参画が遅れており、2019年版では過去最低。先進国では最低水準

はばたき21情報コーナーおすすめ図書案内

女性・スポーツ大事典 子どもから大人まで課題解決に役立つ

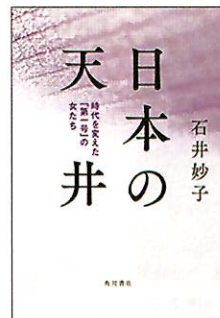
エレン・J・スタウロウスキー 編著
井上則子/山田ゆかり 監訳
西村書店



女性がスポーツとどう関わってきたか、その経緯や障壁とメリット、メディア、リーダーシップ、ビジネス等の諸問題について考察する。

日本の天井 時代を変えた「第一号」の女たち

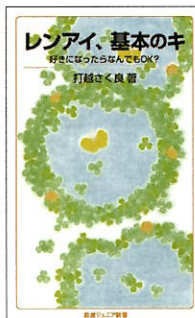
石井 妙子 著
角川書店



女性が組織や社会の中で立場や地位を求めても、それらを阻止しようとするガラスの天井。強固なものとして存在した日本の天井を打ち破り、各界の「第一号」として道をつくってきた女性たちの姿。

「レンアイ、基本のキ」 好きになったらなんでもOK?

打越 さく良 著
岩波ジュニア新書



好きになったら束縛するのも当然の前なんでしょうか。不幸せな関係に陥らないために、事例をあげながら、恋愛のなかの暴力やその対処法について解説。

Q どうする？ 家庭での性教育 「デートDV/ 対等な関係」

昨年11月、生涯学習センターで中学校PTA対象の人権尊重教育研修会が開かれました。デートDVについてよくわからない、親はどのように伝えていく必要があるかを、助産師・思春期保健相談士の櫻井裕子さんにお話していただきました。櫻井さん自身の体験談や保健相談の事例のほか、クイズ形式の性教育もあり、とてもインパクトのある研修会でした。



講座でお話する櫻井裕子さん

デートDVとは？

デートDVとは、付き合っている相手・恋人からの暴力をいいます。暴力には、身体的、精神的、経済的、性的、社会的暴力があります。ラブラブ期、イライラ期、バクハツ期という暴力のサイクルにより、暴力を受けた側は自分の価値観を奪われてしまいます。そして、自尊心を失った時、急に優しくされると、自分の価値を認めてくれる唯一の人と思いついてしまいます。そうして、やる方もやられる方もわけがわからなくなり、対等な関係ではなくなってしまうのです。そのため対等な関係が望ましいという知識があっても、暴力を受けていることに気づかないことがあります。こうしたデートDVに関して、櫻井さんは、「知識だけでなく自分の事として考えてほしい」と言います。

性教育は人権教育とセクシャリティの平等

櫻井さんの話によると、「日本の性教育は世界と比べ、伝えられていないことが多い現状がある」と言います。

NOと言える自己肯定感を高める

では、どのように親は働きかければいいのか。櫻井さんは「性犯罪者の多くは『嫌がるそぶりはない』『自己決定をすることを同意していない、同意することが必要です。』いやいやよも 好きのうち』ではなく、『いやいやよは マジで嫌』と言えるようになることが大切です。すぐにYESと言わないとき、相手は同意していない事を知っておく必要があります」

知識を身につける機会が少ない男性はアダルトビデオを教科書にしてしまっています。日本のアダルトビデオの多くに暴力的なシーンが含まれているため、相手の気持ちを大切にしない行為になってしまっています。安心安全な環境、対等な関係、同意が得られた場での性的行為は生まれ、究極のコミュニケーションになるのです。世界では、ユネスコが作成した『交際セクシュアリティ教育ガイダンス』を元に、年齢別に価値観や関係性の構築を踏まえた教育が行われています。



デートDV 防止啓発冊子
はばたき21で配布。
区公式HPに掲載。

また、子供の自己肯定感を高めることが大切だと櫻井さんはおっしゃいます。『自己肯定感とは、基本的自己肯定感と社会的自己肯定感の2層で成り立っており、褒めることは社会的自己肯定感にあたります。基本的自己肯定感とは、家庭でテレビなどを一緒にみて共に過ごすこと、体験を共有する・共感しあうことで高まります。そのような場を家庭で作ってほしい。自己肯定感が高い子供はNOが言え、SOSを伝えられるのです』
最後に、保健相談の中学3年生の妊娠出産の事例で、「本人から『私は男に抱かれたかったわけじゃない。誰かに『愛している』と言って欲しかった。そして、本当にそれをして欲しかったのは、お母さんだった』と言われた」という、とても印象に残るお話を伺いました。

たいとうのキラッとさん紹介

ふじ た けい こ
藤田 恵子さん

台東区ビーチボール協会 理事長
台東区体育協会 会計



藤田さんは子供のPTA活動がきっかけでビーチボールに出会いました。現在も、理事長のかたわら、プレイヤーとしても活躍しています。中学生時代にバレー部に所属していたので、ビーチボールには抵抗ありませんでした。

長年続けてこられた秘訣は、1チーム4人で練習を行うので、欠ける訳にはいかないという責任感と練習の度に会える仲間の存在だといいます。ビーチボールを始め、自分の友達が増えたことがやっていたよかったと感じることだそうです。

昨年、台東区ビーチボール協会が20周年を迎え、国立競技場から雷門までの20キロを歩く周年イベントを行ったそうです。台東区には、26のクラブチームがあります。それぞれのクラブチームの方々とおしゃべりして歩く中で、たくさんの交流ができて、あっという間の20キロだったそうです。



ビーチボールは扱いやすく、腰まがりの予防にもなり、幅広い年齢の方が多世代に渡って楽しめるスポーツです。人と人のつながりを大切にしている藤田さん、勝ち負けに捉われないビーチボールの楽しみ方や魅力を伝えたい、イベント等で是非体験してほしいと熱く語っていました。

※ビーチボールは、2チーム(1チーム4人)がネット越しにビーチボールをボレーで打ち合い、点数(1セット9点)を早く得点することを競います。

きて!みて!「はばたき21」



活動交流コーナー



個人・グループの活動や交流に利用できます。

情報コーナー



区立図書館の利用カードで男女平等に関する図書を貸出ししています。

企画室・会議室



研修会・学習会・講演会等に利用できます。(予約制・有料)

調理コーナー



調理台(電磁調理器)3台を利用できます。(予約制・有料)

「はばたき21」は、「誰もが自分らしく生きる」男女平等社会を実現するための区民の拠点施設です。様々な講座や女性のカウンセラーと女性の弁護士による相談を実施しています。ぜひご利用ください。

編集・発行: 台東区立男女平等推進プラザ「はばたき21」
場 所: 台東区西浅草 3-25-16
(台東区生涯学習センター 4階)
電 話: 03-5246-5816
※日曜・休館日以外の午前9時～午後5時
開館時間: 午前9時～午後10時
休 館 日: 第1・第3・第5月曜日
(祝日にあたる場合はその翌平日)
年末年始(12月29日～1月3日)

情報誌編集委員(五十音順)
梶原 雄・近藤 章子・鈴木 渚

はばたき21

検索

R&G
合紙パルプ配合率80%の再生紙を使用

VEGETABLE
OIL INK

ホームページ
はこちら→

